

県内離島の歴史・文化・教育施設等の視察・体験研修を通して、教育研究員の資質向上の充実を目的に、11月11日～13日(2泊3日)の日程で伊江島を中心に宿泊研修を行いました。

1日目は、伊江村教育委員会を訪ね、伊江村の教育についてお話を伺い、その後、修学旅行入村式の様子を視察しました。その後、教育委員会文化財担当の玉栄さんの案内で、公益質屋跡とヌチドゥタカラの家、アハシャガマ、ニバンガゾィマールを訪ね平和教育を行いました。

2日目は、伊江島の特色ある教育活動について、西幼稚園、西小学校、伊江中学校を訪ねて、園長・校長先生からお話を伺いました。その後、ワジー(湧出)、ニャティヤ洞(千人洞)を巡りました。

3日目は、伊江島をあとにして、辺野古崎見学、沖縄科学技術大学院大学を見学して、帰路につきました。



写真1 島尻教育研究所を出発

教育研究員の感想 (研修日誌から)

教育委員会訪問では、宮里教育長より伊江島の教育について、2つの視点からお話を頂きました。伊江島では“夢は世界へ 心に古里を”をスローガンに、グローバル教育とふるさと教育に力を入れているそうです。英会話検定3級獲得に向けて、英会話塾を開いたり、自分達の島に似た与論島の教育を視察するなど、学力の向上に力を入れているのが伝わりました。15の旅立ちに向けて、子ども達に付けてあげる力を島全体でバックアップしており、いつか島に戻って来たいなと選択肢のひとつに入れてくれるような子ども達を育てているのが伝わってきました。

平和学習では、伊江島での戦争の痛々しい跡が残っていました。ヌチドゥタカラの家の中に「平和の最も最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である」を記されているのを見て、内容がどうこうよりも、関心をもってくれる子ども達を育てないといけないなと思いました。今後、このような胸が痛くなる思いも子ども達に伝えていきたいです。(上原亜矢)



写真2 伊江村役場 前にて

伊江村の修学旅行入村式を見に行きました。和歌山県から来た高校生たちが、「島んちゅの宝」をかけ声を交えながら元気いっぱい歌っていました。それだけではなく、三線や指笛の演奏まであったのには、驚かされました。みんな、沖縄(伊江村)への思いをしっかりと島の人に伝えることが出来ていたと思います。民泊の楽しい幕開けになったと思います。

平和学習では、伊江村の悲惨な歴史を知り、心が痛くなりました。特に「アシャガマ」では、集団自決によって村民150人の命が失われたとのこと。いたたまれない気持ちになりました。「ヌチドゥタカラの家」では、心にぐさっとくる言葉がたくさん目にとまりました。また、資料の一つ一つが戦争の恐ろしさ、悲惨さを語りかけていました。「沖縄のガンジー」と呼ばれた阿波根さんの言葉も胸に染み入りました。戦争とは何か、どうすれば平和をつくることができるのかを私たちは、一人の人間として、教師として、親としてしっかりと考えていかなければならないと思いました。(比嘉頼子)



写真3 公益質屋跡 前にて



西幼稚園では、とてもきれいな園舎に24人の園児が楽しそうに活動していました。最初に目についたのは伊江島方言の五十音表でした。あ〜んまでの方言とその絵を子ども達書いてひらがなを覚えるのが楽しくなるだろうと思いました。小学校でも学年で習う漢字をみんなで一覧表にするなど何か工夫して活用できそうだと感じました。小学校と廊下でつながっていて幼小連携にはとてもいい環境だとおっしゃっていました。活動も縦割りや畑をしたり、登校も一緒だったり、みんながとても仲がいいそうです。

西小学校では、どの学年も約20名程度の単学級でした。落ち着いた環境でしっかりと学習に取り組んでいる様子が伝わってきました。どの学級も国語で、単元を貫く言語活動と並行読書が充実していました。驚いたのは全館クーラー、さらに大きな体育館など学校が幼稚園と一緒にとてもきれいでした。教育予算がとても充実しており、電子黒板だけでなく、運動場には全天候型の100mのコースがとられていたり、図書館の本も数多くありました。ただ、予算があるから使いたい放題ではなく、しっかり結果も残さないといけないプレッシャーもあるということでしたが、昨年度の全国学テの結果を見せてもらいましたが、特に国語Bなどは県平均より14ポイントも高いなどあまりにも良すぎてびっくりしました。とても恵まれた環境で学習することは大切だと感じました。

(久高友弥)



写真4 西幼稚園 前にて

西小学校では、「挑戦・継続・夢実現」をスローガンに、新聞記事を投稿したり、校長講話の感想を書かせることで、表現する力を身に付けさせることや、統合型スポーツ少年団、学力向上、学習規律の徹底など保護者・教師・地域が一丸となって教育に携わっているということでした。施設においても、全館クーラー、各階に冷水器、グラウンドの充実などどれをみても羨ましくなるほどでした。一番印象的だったのが子ども達の笑顔です。生徒指導の問題もここ数年ほとんどなしということや不登校0ということも納得させられました。

伊江中学校では、普段の子ども達の様子をみてもらうために、あえて私たちが訪問することを生徒に伝えていないということで、どういった反応をするのか楽しみでしたが、立ち止まって挨拶をする、らくがきや教室が汚いということは全くなく、中学校でも生徒一人一人が笑顔で楽しく活動している様子が見られました。素直な子ども達が高校へ進学するときに、サイバー犯罪や水難事故、自立についての講話や指導を行っているということを知り、本島の中学校とは違う課題があることに気づかされました。進学先も31校あり、ほとんどが一人だそうです。この子どもたちがきちんと自立し、大人数の中でもまれ強くなって島に戻って来てもらうことが願いであることも知りました。へき地の課題を直接伺うことができ、貴重な研修となりました。

(富名腰由紀)



写真5 西小学校の授業を参観

OISTの特徴として学部をもたない5年一貫の博士課程で英語での教育を徹底しているのが施設見学でもわかりました。研究室は大きなオープンに実験棚だけの仕切りでした。いろんな分野の専門科の方と交流してほしいという学長の思いでこの作りにしたそうです。コミュニケーションをとりながら話しているうちに新しいアイデアにつながる人が多いそうです。研究の内容についても説明がありました。パネルされすごく見やすかったですが、難しい内容でした。その中でも印象に残ったものが2つありました。1つ目は、海流からエネルギーをうみだすシーホースプロジェクトでした、日本の科学者で3・11を機会に原子力にたよらないエネルギー開発をしたいと考えこの海流エネルギー発電を思いついた話を聴き、すごい情熱をもって研究されているんだと感動しました。2つ目は、生活習慣病予防で難消化米の開発に取り組んでいる話を聞きました。実用化が進んで名前の応募もしているということでした。社会に貢献できる研究をという視点で最先端の研究が沖縄で行われていることに感動しました。

(波照間生子)



写真6 科学技術大学院大学 前にて